

令和5年度入学者選抜学力検査問題 前期日程
総合問題 正解・解答例

I

問1

世界のハンセン病患者数は1980年では1500万人であったが、1981年の治療法の確立や1995年の無料配布開始により激減し、2020年には約13万人となった。これは、治療可能な感染症として消えていく疾病となりつつあることを意味する。しかし、医学は進歩したがハンセン病患者に対する人権侵害は行われてきた歴史がある。治療可能な感染症となることは、医学的には重要であるがそれがもたらした社会的な事象を検証し続けることが重要である。(197字)

問2

感染症を社会的に制御するためには、人間の物理的な隔離が最も重要である。ハンセン病においても原因不明な状況であった場合においては、隔離されたこと自体を否定することはできない。新型コロナウイルスにおいても、爆発的な感染拡大を抑えるために数々の政策が実施された。感染者の隔離、人々の移動制限、さらには社会的活動も大きく制限された。社会的な感染症対策がもたらす個人の選択・権利とのバランスで重要な視点は、なぜ政策や制限を実施するか、実施しない場合に予想されることなど、科学的情報と政治的判断基準の適切な提供ができているか、また基本的な人間の尊厳が守られているかについて社会的対話ができているか、である。(297字)

II

問1

歴史学の研究においては、資料を的確に分析し、かつ明確な論拠を提示することが不可欠であり、また専門家の目を通して批判に耐えたものだけが学問的成果として認められる。因果関係や意味を解釈し説明する手法には研究者の主観が入らざるを得ないものの、過去の事実のうち様々な記録や証拠を基に一種の観測をすることができ、そこからパターンを見出すことが可能である。したがって、歴史学は意義のある学問である。(193字)

問2

(1) まず有意義とする立場として、長期的な観点で物事を捉えることが挙げられる。現代社会において、人はしばしば変化を求め短期的な思考に陥りがちである。人類が類似の現象を目の当たりにした時、例えばインフレーションに直面した時、これまでどのような政策が提示され、いかなる結果をもたらしたのかを歴史から学ぶことは重要である。一方、意義がないとする立場としては、過去と現在とでは人類が置かれた状況は同一ではないことが挙げられる。例えばバブル経済の生成と崩壊に関し、歴史的背景、市場の相互依存性や影響の波及力の強さは同一でないばかりか大きく異なる。過去にとらわれていては解決策が見出せない。故に歴史は参考にはならない。(300字)

(2) 解答例 (賛成の立場)

私は全学生に対し歴史の授業を必須とすることに賛成である。確かに各々の専攻分野が歴史学とどの程度関わるかは学生間で大きな相違がある。しかし文系、理系に関わらず、人類が歴史から得られる知見は捨て難い。学生にとって、歴史が示唆する教訓は現在の検証に生かされ、その現状の解析が将来予測に寄与するためである。過去と現在で背景、条件の相違を識別しつつ、長期的視点に立った一貫した法則性を活用することは重要である。(200字)

解答例 (反対の立場)

私は歴史の授業を全員必修とすることに反対である。現在と歴史は全てが同一又は類似しているのではなく、諸条件が異なることが相当多い。大学での学問の追究において、過去にとらわれず既成概念を打破し、従来になく着想と研究方法を発現させるためには、むしろ歴史から距離を置かねばならない。コロナ禍、SNSによる情報拡散、ウクライナ危機、物価上昇等が複合した昨今の事態の打開策を、歴史から切り離して鑑みる必要がある。(200字)